

藤田観光株式会社
2021年12月期決算説明会 質疑応答要旨
2022年2月10日(木)実施

【2022年12月期業績予想について】

- Q、 どのような事業環境を前提にした業績予想か。また、赤字額 60 億円は大きいと考えるが、黒字化はいつ頃と見込んでいるか。黒字化に向け、インバウンドの回復等をどのようにみているか。
- A、 1Q においてはオミクロンの影響を加味しており、3 月以降は事業環境が改善していくと見ている。インバウンドに関しては上期には見込まず、3Q に 2019 年比で 1 割、4Q に 3 割の回復を見込み、通期に均すと 2019 年比 1 割の回復としている。その結果、四半期ごとに徐々に業績を回復させ、4Q 中には黒字にもっていきたいと考えている。
- Q、 黒字化に向けては WHG 事業の新宿など首都圏事業所の回復がカギになると考えるが、回復に向けての施策はあるのか。
- A、 L&B 事業とリゾート事業は早々に黒字化を目指せると想定している。WHG 事業の黒字転換に向けてカギとなる首都圏事業所は、2022 年は日本人客の取り込みに注力していきつつ、黒字化の達成に向けては 2023 年以降のインバウンド需要取り込みの最大化が必要と認識している。また、首都圏に限らず賃料減額交渉も継続していく。
- Q、 営業固定費の削減継続は 2020 年から進めてきておりかなりの効果が出ているが、2022 年はどのように進めていくのか。
- A、 固定費削減は 2021 年同様継続していくが、売上回復に合わせて水道光熱費が上昇してくることや、新規開業したタビノス京都の賃料の純増、要員増の影響で若干増加すると考えている。
- Q、 L&B 事業の増収幅が他事業より低い背景は？
- A、 事業所閉業による減収影響と、宴会需要の回復が見通せないことが要因である。宿泊、料飲はプロモーション展開が奏功しているので、ホテル椿山荘東京の売上の部門別構成が変わっていくと認識している。

以上